

## 発刊によせて

平成 30 年度は、7～8月の記録的な猛暑、続く9月の長雨と日照不足に加えて、数回の台風接近があり、特に台風24号により農作物への大きな被害が発生し、昨年に引き続き不順な天候の影響を大きく受けた年でした。

このような中で、千葉農業事務所では、「第10次普及指導5か年計画(平成30年9月一部改正)」に基づき、①持続性のある園芸産地づくり、②農業基盤を守る地域営農の仕組みと経営体の育成、③地域農業を支える高い経営者資質を持った畜産経営体の体質強化、④経営者意識を持った多様な担い手の育成、を主要な柱として普及活動を展開してきました。

現地活動においては、市原市姉崎地区のだいこん、千葉市東部地区のにんじん、八千代市のなしなど歴史ある園芸産地の維持・発展、キャベツ、わけねぎなど新しい産地の基盤づくり、地域の水田営農を持続するための水稻経営体の規模拡大や集落営農の推進など、地域農業の生産基盤の強化に取り組みました。

また、次代の千葉地域の都市農業を中心となって担う新規就農者を対象とした農業経営体育成セミナーや新規参入者研修会の開催、若手女性農業者や畜産後継者などを対象とした各種研修会の開催など、多様な担い手の育成にも取り組みました。

さらに、今年度は支援している女性農業者組織から3名の農業委員が誕生し、女性農業者の社会参画につながるあらたな動きもありました。

本誌では、このような活動の中から、千葉県農業改良普及事業70周年記念大会で発表された課題と千葉県農業改良普及事業協議会褒賞事業で発表された課題を「成果の部」、単年度の主要な活動等を「記録の部」として取りまとめました。

これらの事例が地域の農業振興へのヒントになるとともに、普及活動への御理解の一助としていただければ幸いと存じます。

結びに、農業改良普及事業の推進に御協力と御支援をいただいた関係者、並びに関係機関の方々に感謝申し上げますとともに、今後とも一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

千葉県千葉農業事務所長 澤川 隆